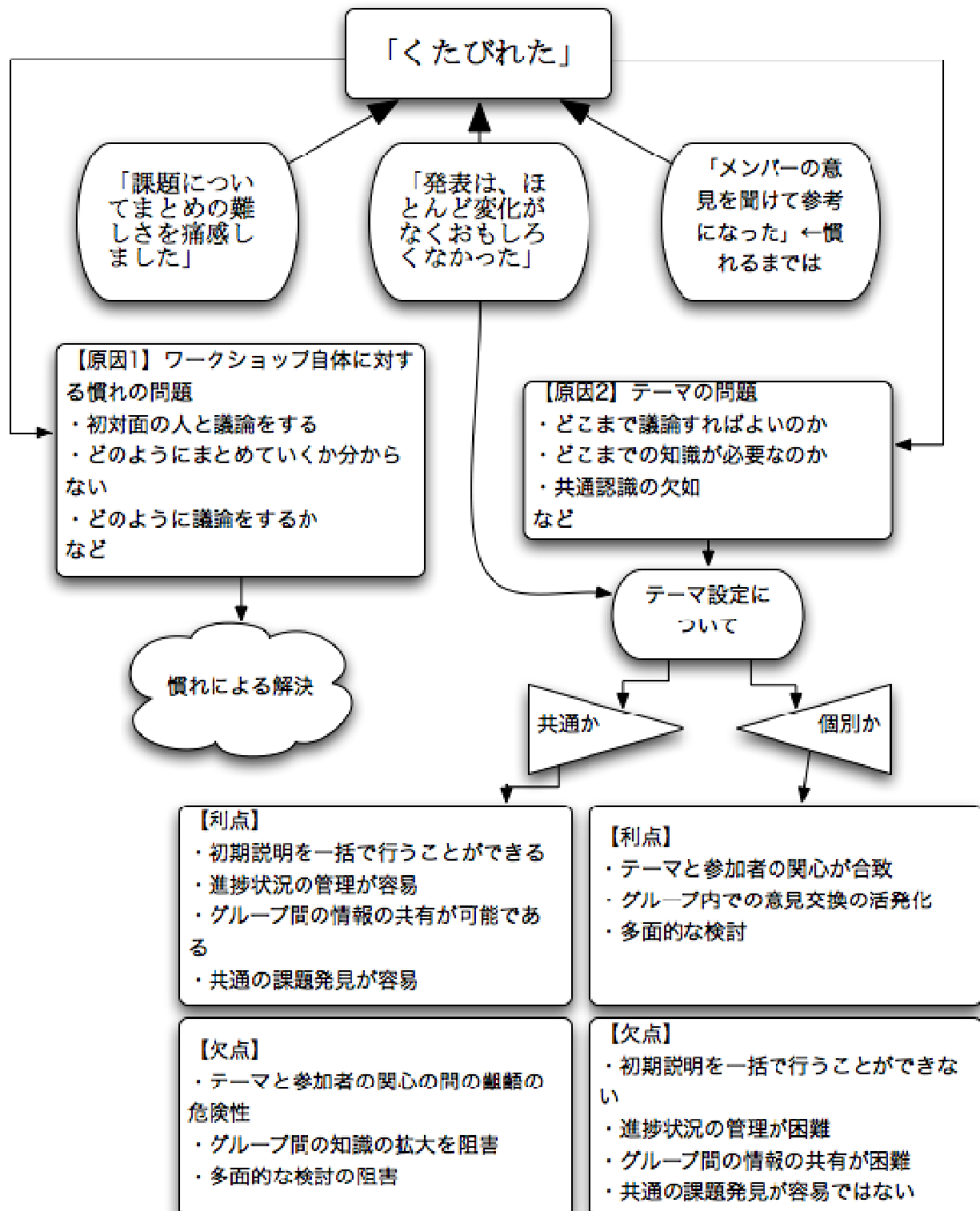


まちづくりの担い手再考
- 決め方の論理を考える -

馬場 健

1.ワークショップの効用
【アンケートから】



【今回のワークショップの目的】

- ・ 討議の方法に慣れる
- ・ 行政サービスについての役割分担の一端を理解する

【ワークショップの結果】

「各グループの発表を聞いて、いろいろな問題、解決方法が分かり勉強になりました。」

「テーマについては興味があるが、それ以上にグループの討議が良かった。」

「課題についてのまとめの難しさを痛感しました。」

など

【疑問点】

「まちづくり基本条例とどのように結びつくのか、もう一度確認されたいと思います。」

「一つの例題としての『ゴミ問題』だったと思うが、最終的に目指しているものとは何なのか」

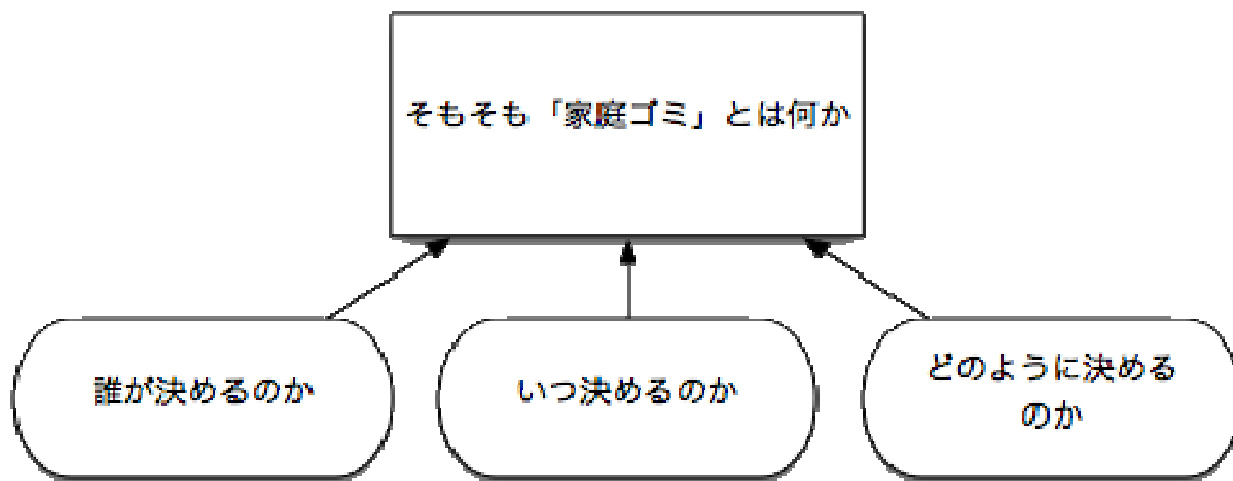
2.ワークショップとまちづくり基本条例との関係

【これまでの学習会の記憶】

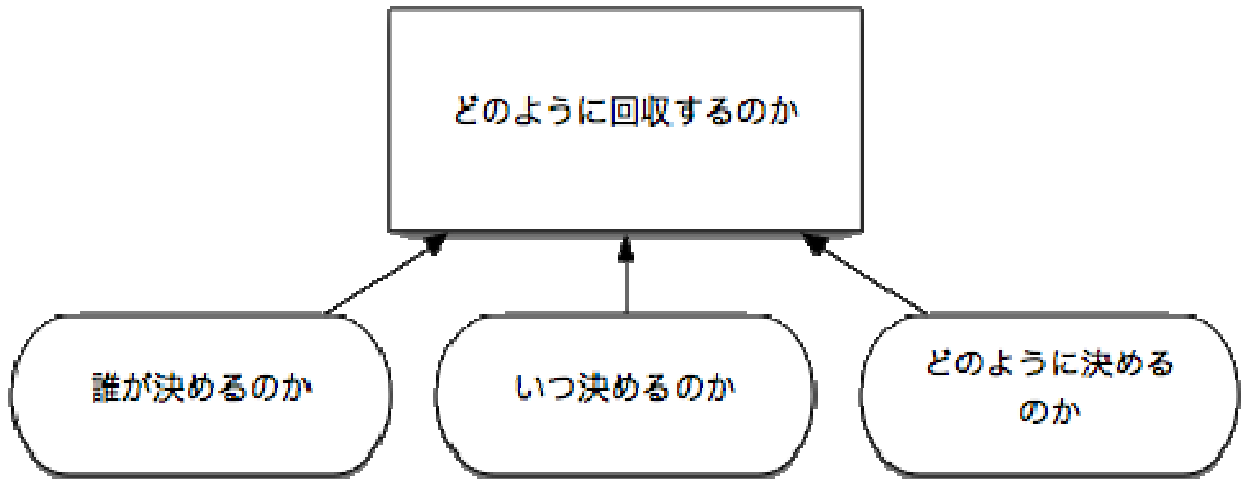
・ 政策は、立案（決定） 実施 評価 フィードバックの一連の過程から成り立っている。

【ワークショップの題材 家庭ゴミの収集】

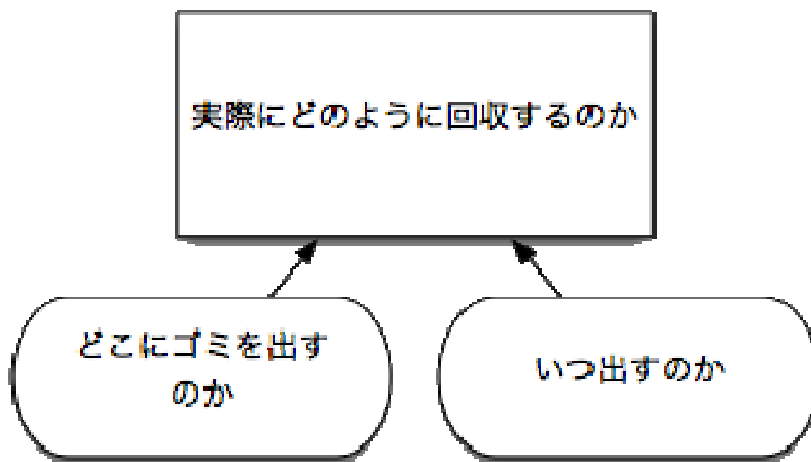
家庭ゴミとは何か（立案（決定）段階）



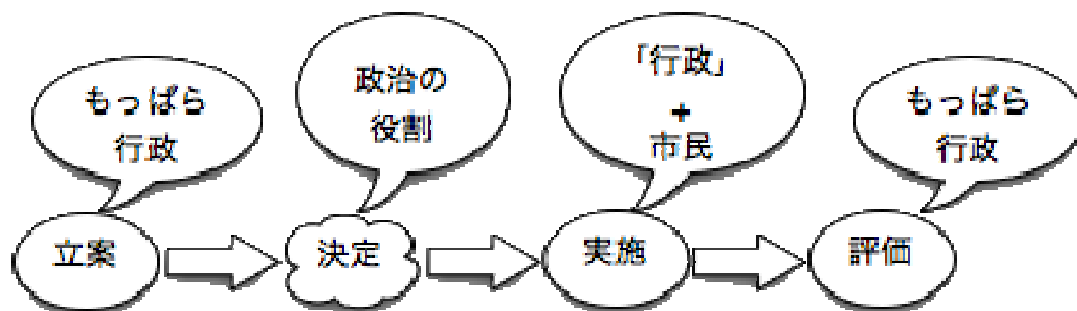
どのように回収するのか（立案（決定）段階）



実際にどのように回収するのか（実施段階）



【今まではこの一連の過程を誰がどのようにしてきたのか】



【これからはどのようにしたらよいのか】

一つの方法として、市民と行政との関係性を再定義する

まちづくり基本条例制定という方法